

## 白ネギ



## ネギ黒腐菌核病 土壌分析で畑ごと処方箋



静岡県磐田市 **松下俊雄**さん<白ネギ> 2019年

ネギで全国的に猛威を振るう黒腐菌核病。連作による最重要土壌病害で、壊滅的な打撃を受けた産地もある。静岡県農林技術研究所(県農技研)では対策として、畑ごとに土壌診断による発生リスク評価を行い、それを踏まえた体系防除を呼び掛けている。

JA遠州中央白ネギ部会の松下俊雄副部会長(取材当時71)は、「黒腐菌核病は掘ってみて初めて分かる。精魂込めて作ったネギがダメだった時はショックだ」と悔しさをにじませる。「磐田の白ネギ」は、明治期からの歴史あるブランド。「秋冬ネギ」の国の野菜指定産地だ。しかしこの10年ほど、連作障害でネギ栽培を断念し、キャベツに転換する生産者も多く、磐田市のネギの作付面積は、10年前の3分の1近くになっている。

### ■土の「健康診断」で発生リスク評価

前出の体系防除は、県農技研が作成した診断・対策マニュアルに基づいている。これは「ヘソディム」(健康診断に基づく土壌病害管理)<sup>注)</sup>の考え方をもとに作られており、前作の状況や畑の土壌分析結果から土壌病害を予防、適正な防除を行うもの。

元となる「健康診断」にあたる「土壌分析(黒腐菌核病)」は、当該の畑の土壌をふるい上で洗い流し、水中で菌核を分別する。作業に時間を要し、**現地での分析が難しいのが問題点であったが、アグロ カネショウでは2017年から土壌診断で検査できるようになった。**

**JA遠州中央ではこのサービスをいち早く導入し、部会での土壌分析のとりまとめや栽培講習会における防除技術の情報提供に活用、白ネギ部会員のほ場対策に役立てている。今では農家から自発的に「土を見てもらいたい」と要望が出るようになり、リスク管理の意識向上にもつながっている。**アグロ カネショウでは、ヘソディムと照合し、総合的に3段階で発生リスク評価を行う。

### ■土壌消毒、殺菌剤など3対策で

県農技研では体系防除として、①作付け前の土壌消毒、②土寄せ前の殺菌剤消毒、③土壌のpH濃度を7以上にする—の3対策を組み合わせることで、黒腐菌核病の発病株率が1.6%にとどまり、ほとんど出荷できたとしている。

土壌消毒では、作付け前に「バスアミド微粒剤」などを使用し必ずビニール被覆する。殺菌剤は「アフエットフロアブル」を2回、土寄せ前にかん注する。pH改善は、苦土石灰を施用する。

注)農業環境技術研究所が開発した土壌分析で病害を予防する手法。

「健康診断に基づく土壌病害管理」の英訳を略し「HeSODiM(ヘソディム)」と名付けた。

**アグロ カネショウの  
土壌分析**

農作物の生育に  
大きな役割を持つ  
土壌の健康診断を  
実施しています。

